

札幌 スポーツ協会だより

一般社団法人
札幌市障がい者スポーツ協会
発行人 浅香博文
札幌市西区二十四軒2条6丁目
電話 011-612-1184
FAX 011-641-8966

第19回札幌市障がい者スポーツ大会(すずらんピック2019) 開催

【大会期間】5月12日～6月2日（各日曜日）

【実施競技】7競技（アーチェリー、水泳、卓球、陸上、ボウリング、フライグディスク、バスケットボール）

【参加者数】1,559人（選手995人、役員564人）昨年度に比べ70人の増加。

【開会式】円山競技場で行われた総合開会式では、町田隆敏副市長から、「スポーツを通じた心のふれ合いによって、障がいのある方もない方も、お互いに対する理解が深まるきっかけとなってくれることを願っています。」とのあいさつの後、村田稔実選手と齋藤綾子選手の選手宣誓があり、競技が開始されました。



第19回全国障害者スポーツ大会北海道・東北ブロック予選会開催 サッカー全国大会出場へ

◇知的バスケットボール◇

6月15日(土)・16日(日) 福島市あづま総合体育館

男子は、準決勝で北海道を大差で降しましたが、決勝で秋田県と対戦し、前半は互角に戦いましたが引き離され、2位になりました。女子は、3位決定戦で北海道に敗れました。



◇知的ソフトボール◇

6月22日(土) 札幌市スポーツ交流施設コミュニティドーム

青森、岩手、宮城、北海道、札幌が参加。札幌は、準決勝で5回裏同点に追いつきましたが、タイブレーカーにより岩手に3点を奪われ惜敗。3位決定戦では、青森に7-2の大差で勝利しました。

決勝では、息詰まる投手戦の末、常勝宮城が最終回に岩手を制し、優勝しました。



◇知的サッカー◇

6月29日(土)・30日(日) 宮城県利府町みやぎ生協めぐみ野サッカー場

悪天候の中、札幌は、準決勝では6-0で仙台を降し、決勝では秋田に対しPK4-2の激闘の末勝利を収めることができました。世代交代したチームは、主体的にコミュニケーションを図って、全国大会に向け準備を行っていきます。



第19回全国障害者スポーツ大会(いきいき茨城ゆめ大会)出場者決定

【派遣期間】10月10日(木)～15日(火)

【選手団】77名(選手46名、役員31名)



【個人競技30名】

陸上	
身体	村川成菜
	河原郁世
	足達輝羅
	鈴木努
	木村重樹
知的	藤本利咲
	五野井志保子
	土田裕一朗
	田村遼太
	村田稔実
	佐藤爵
	伊藤力哉

水泳	
知的	久保田裕花
身	井田怜菜
体	中野光恵
知的	吉川恭平
的	石井飛州
知的	齋藤毅
アーチェリー	
身	高橋春花
卓球	
知的	伊藤尚毅
身	前田佳子
体	渡邊淑子
	秋山實夫
	柴田美樹

【団体競技16名】

サッカー(知的)	
依田航	
阿部智哉	
田中恵一郎	
彦根一成	
清水誠	
高橋正英	
立田智也	
前田拓也	
山木開斗	
斎藤誠	
松本竜也	
阿部蓮	

令和元年度札幌市障がい者スポーツ協会定時総会開催

【日時】 5月15日(水)午後3時～4時
 【場所】 札幌市身体障害者福祉センター3階大会議室
 【議案】 ①平成30年度事業報告、②平成30年度収支決算、③札幌市への要望、④役員改選
 【審議】 提出議案について、原案通り承認決議されました。



◇新役員名簿(令和元年5月15日～令和3年5月)◇

【顧問】 千葉英守【顧問】 島中貞夫【顧問】 霜觸 寛【顧問】 安田泰次【顧問】 小林俊勝
 【会長】 浅香博文【副会長】 中村耕司【副会長】 長江睦子【常務理事】 豊島邦幸【理事】 竹村真一
 【理事】 柳原正明【理事】 二木一重【理事】 志田幸雄【理事】 梶下 博【理事】 高坂 猛
 【理事】 山田春夫【理事】 水谷隆志【理事】 高田研司【理事】 瀬川 誠【理事】 安藤節子
 【理事】 近藤久江【理事】 滝谷雄幸【理事】 中原 明【理事】 菅原悦子【理事】 森 芳郎
 【監事】 中平正幸【監事】 花田裕芳

*顧問5名、理事20名(中、会長1名、副会長2名、常務理事1名)、監事2名

オフィス de ボッチャ in 札幌開催

【日時】 6月5日(水)18:00～20:30
 【場所】 野村證券札幌支店4Fホール
 【主催】 オリ・パラ等経済界協議会
 【概要】 企業自身が競技の楽しさや奥深さを体感し、パラスポーツの盛り上げにつなげることを目的とする。45社・団体、約250人が集結し、ドリームボッチャ札幌から3人の選手が加わり、会場は熱気に包まれ大変な盛況でした。



2020年第7回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム 北海道採火式・分火式・トーチランファーストレグ開催

【日時】 2019年7月7日(日)14:00～16:30
 【目的】 大会の安全と成功を祈願し、スペシャルオリンピックスの認知を高め、協力支援の輪を広げながら、ナショナルゲームを全国的に盛り上げる。
 【会場】 北海道神宮
 【主催】 (公財)スペシャルオリンピックス日本 スペシャルオリンピックス2020北海道実行委員会
 【大会概要】 知的障がいのある人たちの成果発表の場として、夏季冬季とも4年に1度開かれる。同程度の能力をもつ選手ごとに競技し、全員を表彰。2020年2月21日(金)～23日(日)札幌、江別、岩見沢を会場に、アルペンスキーやスノーボードなど7競技に国内から約650人が参加する。



令和元年度初級障がい者スポーツ指導員養成講習会(告知)

【日時】 令和元年11月16日(土)、23日(土)、30日(土)
 【場所】 札幌市身体障害者福祉センター3階大会議室
 【定員】 30名
 【カリキュラム】 講義及び実技で20時間
 【詳細】 「令和元年度初級障害者スポーツ指導員養成講習会開催要綱」(10月上旬当協会HPに掲載予定)



賛助会員ご加入ありがとうございました



(敬称略)

◇個人 平成31年3月1日～3月31日(受付順)

石川 佳穂	高坂 猛	倉知 永子	藤田 治	佐藤 勤	沼澤 一夫	後藤 宗夫
西川ひろみ	小野 茂	以頭奈保子	羽田 信武	北澤 博	青木 由佳	

◇法人・団体 平成31年3月1日～3月31日(受付順)

(敬称略)

札幌ノースウインド (株)JTB北海道札幌法人事業部 (株)ムトウ 社会福祉法人札幌市社会福祉協議会

平成30年度(4月1日～3月31日)

個人会員	183件	461,000円
法人・団体会員	89件	595,000円
合計	272件	1,056,000円

賛助会員の募集

平成30年度の賛助金の使途につきましては、大会開催・派遣の助成やスポーツ指導者養成等に活用させていただきました。皆様のご協力をお願ひいたします。

◇個人 平成31年4月1日～令和元年6月30日(受付順)

(敬称略)

鈴木 淳平	松田 敦	高橋 道孝	高田 康夫	高橋 幸夫	高橋千鶴子	石塚 義成	眞鍋のり子
岡崎 勇二	橋本 順子	渡邊 正良	扇谷 明美	山崎佳奈子	板野 政也	福島 太郎	仁部 一夫
盛岡 伸	山口 陽子	出口 信真	赤沼 雅子	才田 嘉子	荒木 豊	柴野 ヨネ	野村 萌
吉羽 隆	佐藤 雅之	中平 正幸	佐々木 弘	山本 文子	谷澤 広子	折館 徳勝	五十嵐衿子
沖村 圭子	志藤 昭子	松田 信幸	松田 智子	伊勢由記子	野島 聰	多田 幸子	古屋 京子
小黒トシ子	渡辺 幾子	井上 敬常	石山 博史	田島 元樹	山崎 高徳	佐藤 学	石川 英二
渡辺 淑子	棟 智恵子	金谷 泰亨	澁谷 直	小林 麻里	原 雄哉	織田 明春	滝田 広子
前田由紀恵	鈴木 幹夫	浅香 博文	金 操	武田 晴至	馬場 順子	槇 澄子	鹿熊世紀子
河原 麻子	川岸 裕子	鈴木 輝子	吉田 啓子	三浦 淳	保坂 正勝	保坂美根子	柴田 美樹
相良 幸男	後藤 久雄	安田 泰次	伊藤 孝之	遠藤まゆみ	仁科 啓孝	仁科 敬子	

◇法人・団体 平成31年4月1日～令和元年6月30日(受付順)

(敬称略)

(株)ロックウェル	(株)ワールド	肢体ゲートボールクラブ
水泳クラブ ラブリー	札幌地区バドミントン協会	札幌ろうあ者フロアカーリングクラブ
大塚ウェルネスベンディング(株)	身体障害者パークゴルフクラブ	一般社団法人札幌歯科医師会
公益社団法人北海道理学療法士会	中失協ゲートボールクラブ	医療法人社団いとう整形外科病院
(株)ノアコンセル	医療法人社団元氣会札幌整形外科	札幌市身体障害者アーチェリー協会
札幌ろうあ者パークゴルフクラブ	SAWA ウィンタースポーツアカデミー	(株)日本旅行北海道札幌支店
車いすダンスハーモニー	一般社団法人札幌市医師会	あいおいニッセイ同和損保(株)札幌支店
(株)さんけい	かつばの会	特定非営利活動法人障害者自立支援団体麦の会
(有)安藤プリント	(有)恒志堂	札幌協サウンドテーブルテニスクラブ
札幌ろうあボウリングクラブ	一般財団法人さっぽろシュリー	

スズボの伝言板

◇ラグビーW杯日本大会◇

ラグビーW杯日本大会が9月20日に開幕になり、南半球と欧州の伝統国で交互に開かれてきたW杯は今回初めてアジアにやって来る。大会は参加20か国地域が4組に分かれて1次リーグを戦い、各組2位までの8チームが決勝トーナメントへ進む。9回連続出場の日本代表は初の準々決勝進出をめざす。

前回大会で日本チームを率いて3勝を挙げ、現在はイングランドを率いるエディー・ジョーンズ監督は、「社会の空気は政治や経済に影響されるが、スポーツの輝かしい成績が、前向きなムードを吹き込むことがある。ただ、大事なのは一時的な熱狂ではない。日本チームの活躍に胸を躍らせ、多くの子供たちがラグビーを始めるようになることこそ財産になる。」と述べています。

日本代表が先人たちの悲願の実現に全力を尽くし、その躍動する姿が一人でも多くの少年少女がスポーツに取り組むきっかけになることを期待してやみません。